



真珠のレプリカを髪に卒業謝恩会での中川さん

'88真珠特集

パールメッセージ

<真珠と私>

中川知子さん

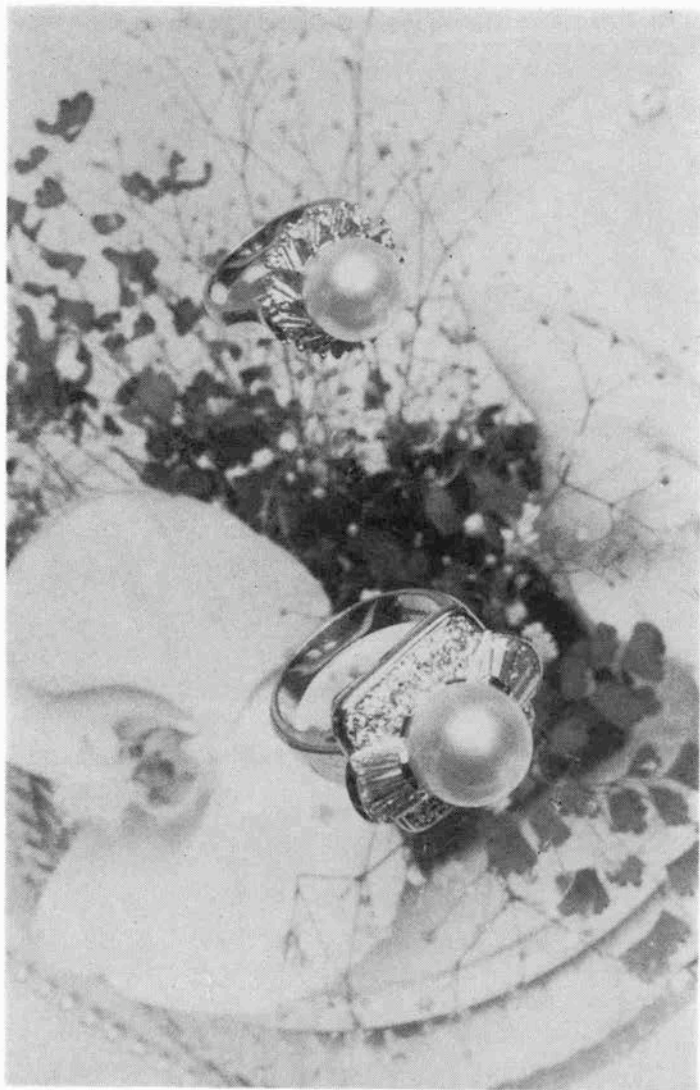
<'87代表クイーン神戸>



「20才の時、母に真珠の首飾りをもらって以来、真珠のファンなんです。若い女性がつけていても、ちっとも嫌味にならない宝石だし、清楚な感じが好き」——と'87代表クイーン神戸の中川知子さん。毎年5月、代表クイーンから次の代表に手渡されるクラウン（嶺ミキモト提供）にもたくさん真珠が使われていますが、知子さんが代表に選ばれた時は緊張のあまりクラウンを落としそうになったとか。

左の写真は、大学の卒業謝恩会で大好きな真珠を身につけたお気に入りの一枚だそうです。

「ミキモトさんに記念に頂いたレプリカです。写真で見るとより実際はもっとパールがたくさんついていて、とても綺麗なんですよ。」笑顔がチャームिंगな知子さん、真珠がともお似合いですね。



“宝石の女王”と呼ばれる真珠

’88真珠特集

パールメッセージ

＜真珠を創る＞

山中恵美子さん

＜金子真珠店 商品企画部デザイン＞



真珠は古くからジュエリーの素材として使用され、貴石の鋭い輝きに対し、優しいその輝きと姿は「宝石の女王」と呼ばれ、曲線的な形、柔らかい光は女性の美しさを表現しているもので、女性が身につけて最も美しい宝石であるといえます。真珠の持つ魅力、色、形、品の良さ、暖かさ、それらを損わない様、品よく仕上げていくのが大切なことだと思っています。

真珠は他の色石と組み合わせても、わき役にもってきても美しさはかわらず、あらゆるデザインの可能性を秘めています。小粒のものをあつめて可愛らしく、個性的な南洋ケシをつかってシンブルに、大粒のものにダイヤをあしらってゴージャスに、年代別、用途別に楽しめるのは、真珠ならではの域の広さです。

エレガントでゴージャスをベースにこれからも真珠を創っていきたいと思います。



'88 真珠特集

□ パールエッセイ

パールプリンセスと ヨーロッパへの旅

奥田 一郎

△ P.R 使節団長 △

スペインバルセロナ市庁で P.P. と奥田団長夫妻

演。

真珠・美の使節 '87年度のパールプリンセスを伴って、欧州五カ国の P.R 事業に旅立ったのは昨秋 10月10日。ちょうど神戸北野町生れの簡美和さんがパールプリンセス。ずっとアメリカへの P.R が続き久々のヨーロッパ訪問でした。

ロンドンでは12日に「スネークレビュー」ブライドファッショショールにさっそく出演。翌朝は女性誌レディによるパールコンペチションの受賞式とテレビに出

スペイン・バルセロナでは熱烈歓迎を空港でうけ、バルナホーシヤ宝飾見本市の会場へ。「なぜ日本からの真珠の輸入が少ないのか不思議」と、割り当て輸入の理解をいただくのにかなり骨がおれた。

晩さん会は「太陽の酒」で大歓迎。十五日はバルセロナ市長を訪問。カタロニア地方の名士の集うカーパス・ライマツでも情熱的な歓迎で、ぜひ神戸と姉妹都市に

なりたいとのご要望が多く、真珠の希少価値の大切さとスペインで改めて輸出しすぎはダメだとの感を深くした。マドリッドでも市長訪問。テレビ出演では国営放送でスペイン真珠輸入組合の力が入っていることを強く感じた。

18日はドイツのフオルツハイム市の輸入業者のパーティーへ。19日はこの街で開かれる第15回デザインコンテストの授賞式に臨み、コシキン社のインダストリアルハウスを訪問。そして20日はケルン市のホテルで、ファッショショール（ツフト・ベルレン・シュースター社後援）に参加。23日はミキモトの小売店関係の方と共にライン川の観光をした。

25日はパリへ。翌日パリ市を訪問。夜はジェトロのパーティー。26日は公立と私立の宝飾学校を訪問、フランスの宝石輸出入業者とのレセプション。

28日は最後の訪問地ローマを訪ね、30日には、芸術・文化分野における功労者五名の功労者の授賞式に参加。業界やジャーナリストの人々と出会った。そして11月1日日本へ。

パールプリンセスの簡さんの振袖姿の着付役はすべて、家内の多佳子が担当し、日本の真珠の美の使節の人氣に P.R 事業の大切さを思った。それにしてもスペインの情熱的な歓迎と美女の多さ、そして、食事の美味しさは忘れられない。



ドイツのケルン市で小売業者のパーティーで P.P. の簡美和さん



スペイン・マドリードのTV出演/モデル達はパールをつけて。中はバルセロナのスペイン輸入組合長とP.P.。下はマドリード商工会議所で。大使館のご夫人方とP.P.奥田夫人。



フランス・パリのバレスホテルでのファッションショー。モデルに囲まれた振袖姿のP.P. 簡美和さん



イギリス・ロンドンの輸出組合長(英)とP.P.

真珠とファッションの融合で

世界への発信を！

■座談会出席者（敬称略・順不同）

藤本ハルミ〈ファッションデザイナー〉
〈K・F・M会長〉

高野 多美〈ファッションコーディネイター〉

山本 泉〈岡山真珠社長〉

中村 友一〈御影貿易商事社長
日本真珠振興会広報副委員長〉

森 隆〈森真珠社長 日本真珠輸出
加工協同組合副理事長〉

高橋 洋三〈タカハシパール株式会社
PCC推進協議会議長〉

真珠は古来から洋の東西を問わずに珍重され、多くの人に愛されてきました。特に神戸は「パールシティコウベ」のキャンペーンにより「真珠の街・神戸」として知られています。そこで本日は、真珠業界の方々とファッション界の方々にお集まりいただいて、改めて真珠の魅力や真珠業界の動向など、真珠にまつわるお話をうかがいたいと思います。

★定着したパールシティコウベ

中村 真珠は終戦直後から輸出産業ということで、世界各国、特にアメリカへ輸出されてきたわけです。そこでは今だ根強い需要があります。日本国内に関しますと以前は真珠に限らず、宝石類を買うところまでの余裕がありませんでしたが、ここ十数年来、経済的にも豊かになりまして、売上げもどんどん伸びています。しかしまだまだ、今後国内の市場を広げていかなければと思っています。こういう状況で「パールシティコウベ」のキャンペーン活動も盛んになってきました。このキャンペーンは、業界の若い人から盛り上がりつつあるものですが、その他にも映画、パンフレットはもちろん、パール



森 隆さん



高野 多美さん



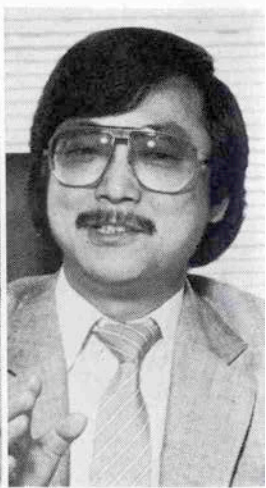
山本 泉さん



中村 友一さん



藤本 ハルミさん



高橋 洋三さん

プリンスコンテスト、インターナショナルパールデザ
インコンテストなどを行い、販売の促進、国内需要の喚
起に力を入れています。

森 ひとつの動向としてここ何年間、年間50%以上が海
外へ輸出されていた。そこに例の円高の波が押しよ
せたわけです。しかし幸運にも日本が豊かになったうえ
に、女性の方の地位が向上しまして、国内の売り上げを
支えていますね。財布のヒモを握っておられますから、
女性さまさまというところです。これからますますが
んばっていただかないと、女性の方あつての真珠業界で
すから(笑)。

高橋 “パールシテイコウベ”のキャンペーンも、ポー
トピアがきっかけとなりましたね。いろんな意味で起
爆剤となりました。私どもの業界でも当初は“パールシ
テイコウベ”とかいっても、何をすればいいのかわから
なかつたようですが、徐々にそれに対応する能力がつい
てきました。世の中が物の充足から、個人の豊かさの充
足へと変わってきました、ファッションも個性化を強め
てきましたので、今後も時流にのった展開が可能だと思
います。円高も単なるマイナス要因というだけでなく、
業界全体を見直す契機であつたと考えれば、むしろ好
機であつたと思います。これからの目標としては、まず
神戸が“パールシテイ”であることを、神戸市民によく
知ってもらい、それから外へ向かつて真珠文化を広げて
いきたいですね。

山本 私共の当社があります山本通りには、ミキモトさ
ん、五星さん、山勝真珠、奥田真珠さん、パールギャラ
リーさん、木下真珠さん、水木真珠さん等が、回教寺院
や、中山手カトリック教会などエキゾチックな建物のあ
る、インターナショナルな通りにありまして、一昨年
「神戸っ子」さんの座談会をきっかけに“パール・スト
リート”という愛称の提案をさせていただいておりま
す。“パールストリート”にふさわしくと、私共も昨年
の七月にアーチストの多田美波先生に、真珠貝の「イメ

ージで「GRACE」(麗)というモニュメントを創っていただけで、「パールシテイコウベ」の中の「パールストリート」を、北野界限の観光客や外国人、地元の方々にアピールしております。

★真珠のファッション化、市民性化を!

——では次にデザイナ―そして愛好者としての目で見たい意見を、おうかがいしたいと思います。

藤本 日本は戦前着物を着ていたので、宝石にはあまりなじみがない文化でした。それが洋服文化となり、また国が豊かになったこともあって、みなさん宝石を身につけられるようになりましたね。以前は宝石を身につけている方は、ごく一部の方々だったのが、今ではどなたでも、真珠やダイヤモンドの一つぐらいはお持ちですね。これからも、ますます売れるのではないですか。これからもひとえに、男性方ががんばってこられたからですが(笑)。

私どもKFMはファッションショーの中で、パールアワ―のコーナーを持っています、真珠のデザイナ―とは一味違った、真珠とファッションを組み合わせたデザインを発表し、好評を得ています、これも神戸のデザイナ―でないとできないと思います。

高橋 おっしゃるとおりでして、私どももこれからは、神戸のファッション業界とも協力していきたいと思っています。

高野 今までのお話をうかがいまして、これは大変もったいないことだと思いました。というのは、神戸の真珠業界がこれだけがんばっているから、今ファッションの発信地は東京なんです、それはマスコミの力によるところが多いです。ですから真珠業界もそれを利用することが、必要ではないかと思うのですが、それと真珠も生活に根ざしたファッションとして定着しないと、だめではないですか。ダイヤモンドがそれで成功しまし

たから。向こうはコマ―シャルも、なかなか上手です。そういうことで、これからは若い人へアプローチしてほしいですね。それには、まずファッション雑誌を利用すべきですよ。若い人はそれを見て動きますから。タンスにしまわれるのではなく、日常身につけてもらえる、というファッション化、市民性化を進めてほしいですね。

山本 ファッション性、市民性を持たせるということは流通を科学的に考えて「売る」ということでしょね。

テレビタレントでコマ―シャル化して、PRして行くといったことは、内需が盛んになってきたんですから業界でも、メーカーでも企画力が必要ですね。

高野 そうですね。すぐれた企画、キャンペーンが必要です。今市場に、ニューリッチと呼ばれる層が生まれています。これが今の流行を動かしている人々で、全体の49%を占めています。どうすればこれらの人々に受け入れてもらえるかといえば、何かのしかけ、キャンペーンをやり、良く知ってもらうことが必要です。

森 女性お二人から、大変有益なお話がうかがえました、確かに真珠業界も男の感覚で進めていますので、女性の方には、あまり良くわかっていただけない部分がありますね。

藤本 そうですね、確かに女性の感覚は違いますね。商品を見ればすぐわかりますもの。ああこれは女の人の感性で仕入れられたものだ。だから店員さんだけでなく、仕入される方も、デザインされる方も、女性の活躍を今よりさらに期待したいですね。それと今や、デザイナ―ブランドなどは、一軒のお店で頭の前からつま先まで、統一されたファッションとしてそろえることができる時代ですよ。だから真珠も、真珠売場だけにかたまっているのは、少し時代遅れではないでしょうか。もっとファッション関連の売り場へ進出すべきだと思います。

高橋 神戸は真珠の集散地ですから、ここを経由して真珠が動いていくわけです。そういうところで何か付加価

値をつけるとすれば、デザインしかありませんね。ですから私どもも、その方向へ進んでいます。

藤本 デザインというのはどんなものでも、伝統も必要ですが、それを破る斬新さが重要ですね。

高橋 はい。真珠におきまして、デザイン発祥の地はヨーロッパなんです。日本は、コンクールではいい成績をとるのですが、日常身につけるものとなると、もう一歩というところで。

山本 私も「いい真珠」は好きですね。真珠層の厚い、天然のリッチな光沢のある真珠。品質のいい真珠が本物指向の時代なので、お客様の要望も高まって来ておりますね。真珠を身につけること自体が、流行に左右されない商品としてまず愛好されておりますから、そういう持続性と、絶えず目新しさを創りだす斬新なデザインと



左より高野／藤本／中村／森／高橋さん

ファッショニステータスを持たせて、欲しがられる商品であることが大切だと思いますね。

藤本 それから「パールシテイコウベ」という言葉は、とてもきれいですね、ですからもっと全国に広めたいと思いますね。

高橋 確かにそうなんです、神戸から一歩外へ出ますと媒体の問題がありますし、神戸は集散地なんです、生産地や消費地の問題もあり、全国展開する時に「パールシテイコウベ」でいけるのかという問題が一つあります。

藤本 志摩のパールというのいいですが、神戸のパールといった方が、ファッショナブルでよく似合いますね。高橋 はい、それは神戸イコールファッショニステータス、というイメージが定着しているからですね。

★全国エリアの媒体を使って女性へのアピールを

藤本 神戸はPRがものすごく下手ですね。自分たちだけ楽しめばそれでいいといったところがあって。

高野 やはり全国エリアの媒体を使わないと。対象は若者ですね。それにデザインも、よりファッショニステータスなものにしてほしいですね。宝飾の中で真珠ほど、日常身につけるのにびったりするものはないですね。ですから真珠業界の人も、ファッショニステータスの中の流れを勉強してほしいですね。

森 私ども男性は、ファッショニステータスを気にしませんから。

藤本 それがいけないんですよ(笑)。真珠をきらう女性はいないと思うのですが、本当におしゃれをして、いい真珠をつけてカッパルで遊ぶ所がありませんでしょう、日本には。いわゆる社交の場なんです。真珠業界の人にも、そういう場が増えるように頑張ってもらわないと。

森 カッパル単位はにがてですね。私ども男性は(笑)。

中村 現在アメリカでは、女性のクローゼットの中に何が、必需品ですね。それには、毛皮のコートやカシミヤのセーターと並んで、真珠が加わってきているそ

うです。

高橋 アメリカもようやくですね。ヨーロッパでは、とくく市民権を得ています。日本もそれを目ざして、いろいろと努力しているわけです。

藤本 これから、ますます売れるでしょうね。

高橋 ええ。それは間違いないのですが、もう一歩業者が大同団結できればいいのですが。

藤本 私は、真珠にはファッションを越えた魅力があると思います。あこや貝が海の中ではぐくんて生み出した美しい玉で、ただの宝石という気がしません。命があるような感じがします。真珠がきらいだという人は、あまりいないんじゃないですか。

中村 ありがとうございます(笑)。でもそれがメリットでもあり、デメリットでもあります。

藤本 ええ。それにあぐらをかいてはいけませんからね。

★真珠学校の設立で人づくりを!

—— さて女性お二人の、非常に有益な御意見をうかがったわけですが、最後に今後の展望をお聞かせ願えますか。

高橋 これから私も、デザインを開発する人材を養成していきませんと。個々にがんばってくれ、だけでは心もとないですから目標をかかげて、具体的にいいますと、神戸が日本だけでなく、世界の中心地でありつづけるために努力し、それを世界の人にアピールできるだけのものを生み出したいということです。真珠の各種フェアですとか、ファッションとコーディネートして、世界へ発信していくとか、世界的な規模での活動を続けていきたいですね。

山本 私の父(創業者)は、京都生れで絵描きになりました。父が真珠の方が成功いたしまして(笑)。創業60周年になる訳です。父が真珠の品質、色合を見るのにも美意識が必要だし、例えば油絵を描いてもペインテ

ィングするには“化学する心”が要る。だから真珠を加工技術するのに、その絵心と科学する姿勢が非常に役立ったといっておりました。科学する、ということは、養殖によって、いい真珠が生れるので、養殖の技術も含めたデザインの勉強もできる“真珠学校”をつくりたい。そして“真珠学校”の校長先生になりたいという夢を、父がずつといっておきまして、果せず亡くなりましたので“真珠学校”の提案をこの機会にさせて頂きたいのです。

イタリアや、東京、甲府には、デザインの学校がありますので、神戸はもう少し、生産から商品化流通まで勉強できる学校だと、いい人づくりが出来ると思うんです。

中村 今後の課題は、激しい流れのファッション界の中で、真珠をどうやって生かしてゆかかということです。これからの時代は、より物質中心へと移っていくと思いますが、人間性が失われるといいますが、そういう中で真珠というものは、藤本さんがおっしゃられたように何か人間味がありますね。他の宝石と比べて人間を豊かな気持ちにします。

その真珠をどうすれば、ファッションの中で生かせるか。一つはむかしからある、高級品というイメージ、もう一つが毎日の生活というカジュアルな部分ですね、若い人が気軽に身につけられるような。車も以前はステイタスシンボルでしたが、今では生活必需品です。真珠も同じようにならないと。それには中流家庭、若い人へのアピールが必要なので、ぜひこれからは真珠の市民性化に業界も力を入れて行きたいですね。

△ブラン・ドゥ・ブランにて▽

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

株式会社オールスタイル総本社

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区港島中町 6丁目 5-1
TEL (078) 302-3311



“真珠の街・神戸” から美しさを全世界へ—

美しさを贈る
幸せを感じる

奥田 一郎



真珠、そのきらめく不思議な色彩と輝き。それは青い深海に育まれた神秘。その美しさを世界の女性に贈る幸せを感じます。

奥田真珠

社長 奥田 一郎
神戸市中央区山本通 2丁目 4-8
TEL (078) 241-0020

真珠との魅力的
な出逢いを

キャスパー・コムジャン



まろやかな輝きを放つ真珠。その魅力的な出逢いの予感。パールシティ神戸で…。

キャスパーパール(有)

代表取締役 キャスパー・コムジャン
神戸市中央区山本通 2-13-16
サンシャインコートビル 3F
TEL (078) 241-6833



第1次審査風景（於日本真珠会館）

7月2日に

’88パールプリンセス誕生

“海の宝石”といわれる真珠。その神秘さと気品を伝えるのにふさわしい美と教養を兼ね備えたパールプリンセス。その8代目の女王が、7月2日（土）長崎公会堂における最終審査で決まります。

これに先立って、5月23日に日本真珠会館（神戸）で書類審査、6月12日に東京・神戸・福岡で面接審査が行われました。最終審査では、内海重典氏（宝塚歌劇団理事）を委員長とし、業界から田崎俊作、杉田勝時、大月尋男各氏、女優の小林千登勢、新井春美各氏らがその任に当たり、“美の使節”が誕生します。

真珠はハートの
ある宝石

今井 啓介



真珠は、ハートのある宝石。素晴らしい女性たちに、心の通う息吹きを与える真珠は太陽。日本から世界へと真珠は宇宙一体の球形です。

今啓パール株式会社

代表取締役社長 今井 啓介
神戸市中央区山本通 2丁目 7-15
TEL (078) 242-3399

淡水に育つ
淡水真珠の魅力

神保 恵一



淡水の真珠貝が育む
自然な形と光沢。
それが淡水真珠です。

神保真珠貿易有限公司

代表者 神保 恵一
神戸市中央区東町112 東町ビル608号
TEL (078) 321-5924



SAMOTO CLINIC

佐本
産科

ママといっしょに



リサ

鈴木 里彩ちゃん (S.63.12.3生)

ママ・鈴木 里美さん

伊丹市在住

「元気いっぱいの里彩ちゃん！
やさしくてかわいい女の子に
なってネ♡」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15

☎575-1024(病室)☎576-9639)

市バス上沢4停南スグ

実験交流サロン

シアター・ポシェット

6月の公演

10日(金)	19:00	劇団神戸
11日(土)	14:00	「邯鄲(かんたん)」
	19:00	「葵上(あおいのうえ)」
12日(日)	14:00	
25日(土)	15:00~17:00	

神戸ホンモノクラブ主催

「神戸の空の下ジャズは流れる」



★シアター利用のご案内

- 曜日、時間/土、日曜日(通常)AM10:00-PM8:00
- 費用/ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備/グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ

そごう前センター街東南角、さんちか入口

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F

佐本小児歯科 佐本進 ☎331-6302~3